

熱帯現地で学ぶ臨床熱帯医学「司会の言葉」

大石 和徳<sup>1</sup> 中村 哲也<sup>2</sup>

長崎大学 熱帯医学研究所 感染症予防治療分野<sup>1</sup> 東京大学医科学研究所<sup>2</sup>

近年、世界的な急速な国際交通路の整備に伴い日本人海外旅行者数および外国人日本入国者数は増加の一途をたどり、2002年にはそれぞれ1650万人、570万人に達している。このような世界のグローバル化に伴い、熱帯感染症・新興感染症に対する対応の重要性が高まっている。マラリア、デングに罹患する人は毎年500万人にも達し、熱帯地におけるこれらの熱帯感染症の脅威が大きだけでなく、本邦においても輸入感染症として認められる。一方、2003年に世界を震撼させたSARSや本年のH5N1鳥インフルエンザなど新興ウイルス感染症に対する国内外での監視体制や国内症例の発生時に対する対応策も緊急課題である。しかしながら、日本国内ではこれらの熱帯感染症には限られた輸入感染症の形でしか接することができないのが現状であり、臨床医の関心の希薄化や実際の研修機会が少ない等の問題がある。

本シンポジウムでは熱帯医学を熱帯感染症・新興感染症ととらえ、医療従事者、研究者、医学生を対象に、4人の演者（山城 哲先生、長谷川麻衣子先生、岩田健太郎先生、松村武史先生）に熱帯現地で熱帯医学を学ぶ方策としての短期および長期海外研修を、2人の演者（齊藤麻理子先生、堀井俊宏先生）に熱帯感染症をターゲットとした熱帯現地における臨床研究プロジェクトについてそれぞれの経験、成績を紹介していただく。各演者と熱帯医学会会員により臨床力アップを目指す臨床家の視点、熱帯感染症の予防・治療をめざす研究者の視点から「熱帯現地で臨床熱帯医学を学ぶ」方策について議論し、この目的を達成するための今後の望ましい方向性を提案したい。

---

How to learn the clinical tropical medicine in the tropics  
KAZUNORI OISHI and TETSUYA NAKAMURA  
Department of Medicine, Institute of Tropical Medicine  
Division of Infectious Diseases and Immunology, Institution of Medical Science,  
Tokyo University